

# 伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第63号

発行日 : 平成26年 11月 1日

発行 : 伊丹市文化財ボランティアの会

発行所 : 伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

## 初企画！小西酒造の酒蔵見学と

## 村重ゆかいの有岡城跡を訪ねる

### 平成26年度 阪急・阪神沿線観光歩き

台柿がたわわに実る季節の10月23日(木)、今年も阪急・阪神沿線観光歩きが始まりました。参加者16名・関係者8名に加え、ケーブルTVの「地元ニュース」の取材クルー2名と共にまち歩きがスタートしました。

かつて伊丹は摂津の国の中心であり、戦国時代には惣構の城「有岡城」が築かれました。その後、江戸時代には酒造業で栄え、お酒の香りに誘われて多くの文人墨客が訪れました。今回は、その伊丹の歴史の足跡をたどるコースとなっています。

また観光歩きでは初めての試みとして、酒蔵見学が企画されました。訪問した小西酒造は、460年以上の歴史をもつ現存する日本最古の酒造会社です。参加者は白い上着・キャップ・靴カバーを着用して、四季醸造工場である富士山蔵内の見学が始まりました。工場内はお酒の香りが漂い、大きなタンクが何基も並んでいました。現在仕込み中のタンクを覗き込み、その香りの違いなども体験できました。そして見学の最後にお酒の試飲をさせていただきました。参加者より歓声が上がったことは言うまでもありません。まずは酒

造りに使われる不尽の井(ふじのい)から汲み上げられたお水をひと口。つづいて小西酒造に残る古文書より再現された元禄時代



のお酒や鑑評会でのみ出されるという特別な大吟醸をいただきました。

### 工場内で説明を聞く

ひと口、ふ

た口と盃を重ねるうちに、参加者同士の話はずみ、和気あいあいとした雰囲気になりました。お友達へのお土産か、今夜の晩酌用なのか、みなさんの財布の紐がゆるんだようです。美味しいお酒と共に伊丹のまちのことも土産話としてお持ち帰りください。

さて、酒蔵を後にしてまち歩きの再開です。有岡城跡では、今年の大河ドラマの主人公の黒田官兵衛が幽閉された場所ということもあり、ガイドの説明に耳をかたむけておられました。心地よい秋風に吹かれつつ、さらに北ノ口や猪名野神社と歩き、伊丹段丘の段差を利用した惣構の北側部分を巡りました。

史跡巡りに加えて、味覚を通して伊丹の町をより知っていただけたことでしょう。

(藤原 記)

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。

市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いいたします。  
(☎:072-784-8090)

## ぶらり塚口あるき 近松記念館

### 土曜班・歴史会共催 屋外研修

ようこそ近松のまち、あまがさきへ9月15日敬老の日、祝日にもかかわらず26名の美男美女が阪急塚口駅南出口に集いました。

南出口には大きな硯と、曾根崎心中のおはつ徳兵衛の名文の碑があります。

此の世の名残り夜も名残り、死にゆく身をたとふれば、あだしが原の道の霜、一足ずつに消えて行く、夢の夢こそあはれなれ。あれ数ふれば暁の七つの時が六つ鳴りて、残る一つが今生の、鐘の響きの聞き納め、寂滅為楽と響くなり。

心ない人が自転車を置くので、禁止の柵を囲ってあるのが少し悲しいです。

近松語り部会の案内人、門田さんを先頭に、いざ近松の里に出発です。

まずピッコロシアターへ、舞台の広さが客席の2倍あり演じやすく、客席は傾斜があつてどこからも見やすい日本一の劇場です。

玉江橋線を渡ると近松のオブジェがあり、上坂部西公園に入ります。尼崎にも緑がこんなにあるのかと感心される方々、そう、実は案外あるんです。温室もあり、サボテン・熱帯の花などたくさんあって、夏には「夜に咲く香る花展」もありました。

JRの地下を潜ると、ちかまつロードです。都市美形成建築物の廣田邸を過ぎると、伊佐具神社です。市内唯一の式内社、豪族坂合部たちが住んでいたといいます。この地で神酒を醸造したので、酒部とも言われます。

震災の被害により平成12年に手水舎を、13年には本殿・稻荷社・石造り鳥居も新たに建立されました。近松公園に入ると木々の緑にホッとします。ね！緑はありますよ。

須佐男神社は鎌倉時代の創建で、源満仲により建立されました。境内には多田神社へ向かって矢を射るのに足を掛けた、矢文石があります。

公園内の近松記念館に到着です。近松ゆかりの品々がこじんまりと分かりやすく展示されています。奉納品「後西院勅筆色紙」「法華二十八品和歌」など近松が公家奉公していたゆかりの品です。「尼崎行き辞りの文」などに照らすと考えにくいですが。ともあれ近松部屋があり、座敷への段梯子、文机があります。華奢な造りは近松が大きい人ではなかった証しでしょうか。

記念館を出ますとすぐに廣濟寺です。廣濟寺は古くは禅寺でしたが、江戸時代には名のみ残る有様、それを日昌上人が法華霊場として再興、開山講中列名縁起に近松の名も連ねています。



廣濟寺の門前を歩く

廣濟寺に近松のお墓があるということで、芸能関係者のゆかりの品も多くあります。今年は10月26日の近松祭は多くの人で賑います。また尼崎が近松のまちとなった由縁です。墓は妻との比翼墓です。回りの木立も程よく絵になる供養墓です。蚊にご用心。

近松線に向かいに渡ると伊居太神社です。悠久の歴史とロマンを秘蔵する市内最大の前方後円墳に建てられています。また弥生時代の集落が発達した地で、白い神鹿が到来したといわれています。

これをもちましてぶらり散策は終わり、いざおいしいランチを求めて解散です。

(浮田 記)

## 平等院とぽっくり寺を訪ねて

### 酒井かつえ

新秋の候、ひとりではなかなか行けない見出しの場所に行く機会がありました。

平成の大改修が終わった「宇治の平等院」と、通称「ぽっくり寺」とよばれている斑鳩の吉田(きちでん)寺を参拝しました。



平等院鳳凰堂

創建されました。極楽浄土の宮殿をモデルにした鳳凰堂内は撮影禁止で、50人ずつ靴を脱いで入りました。平安時代の多くの文化財が伝えられています。本尊阿弥陀如来坐像をはじめ、とくに11世紀の仏像群としては唯一伝来する、雲中供養菩薩52軀があります。いずれも雲に乗り、さまざまな楽器を奏で舞うなど、のびのびと繊細に彫り上げられています。天災、人災がつづいた世の中でも奇跡的に戦災にも合わず、約1000年の時を経て現在に至っています。

「ぽっくり寺(吉田寺)」は千古の歴史を秘めた日本上代文化発祥の地、斑鳩の里にあ



吉田寺の多宝塔

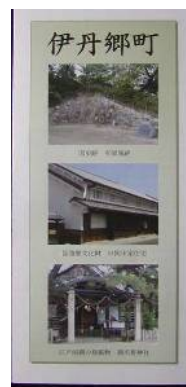
って竹やぶや林に囲まれて、ひっそりとたたずんでいます。拝観者の大半は60～80歳代の女性たちです。創建は古く天智天皇の勅願といわれています。平安時代中期の天台僧、恵心僧都源信によって永延元年(987)に開山したと伝えられています。ぽっくり往生のいわれは、恵心僧都の母の臨終の際、除魔の祈願をした衣服を着せてあげたところ、なんの

「平等院」は永承7年(1052)関白藤原頼道によって父道長の別荘を寺院に改め

苦しみもなく安らかに往生を遂げられました。そこから新しい下着を持参して、本尊阿弥陀如来の前で祈祷をうければ、長患いせず、シモの世話にならないといわれるようになりました。医療の進歩や発展の裏で、自分の老いや病、死について深く思い悩む私もぽっくり願望にあやかりたくて、新しい下着を祈祷して頂きました。

## 伊丹郷町

伊丹郷町の文化財を簡潔に説明したA4版3つ折りサイズのリーフレットが8千部、出来上りました。以前、有岡ライオンズクラブが



旧岡田・石橋家のリーフレットを発行するにあたり、当会は編集の依頼を受け、協力しました。今回は当会が発行するもので、編集から完成に至るまで会員の田中さん、瀧内さん他の方々に尽力願いました。ガイド時の参考になるように来訪者に配布して下さい

9月9日(火)の定例会で、木曜班・どんぐり座で活躍されている柳沢さんの指導による発声練習を行いました。柳沢さんは2月定例会では「ごん狐」の朗読を披露されました。朗読のよく通る大きな声は普段の会話での発声とは違い、腹式呼吸による発声です。

ガイドをするとき、まず皆様に聞こえることが第一です。そのために拡声器があるのですが、できればナマの声で話したい。豊かな声量でガイドができるよう、腹式呼吸による発声を練習してみましょう。(松田 記)





## 近松と私 浮田輝代

私が近松さんとお会いしたのは、尼崎市が「ちかまつのまちあまがさき」と銘打って文化のシンボルにした時に始まります。市制70周年(1986年)のときでした。そののち園田女子



大学に近松研究所が設立されました。国内唯一のユニークな研

究所です。私たちも独自に育友会の乗りで近松応援団を立ち上げました。市民レベルでどこからも援助を得ず、近松を応援する会です。

司馬遼太郎さんが講演され、尼崎は近松の墓がある、ということで評価されました。

司馬さんの奥様も尼崎の名家のお家柄だそうです。

近松さんの墓所がある久々知の廣濟寺へは、文楽や歌舞伎、演劇が上演されるたびに関係者が墓参りをする様子が、新聞で報道されます。

もう一つの近松さんのお墓は大阪市中心部谷町、ガソリンスタンドとマンションに挟まれた狭い空間にあります。サマにならず、こちら(尼崎)に軍配が上がります。

近松は東洋のシェークスピアといわれ、生涯に約150作は書いたといわれる偉大な作家です。心中物は曾根崎心中で大当たり、竹本座を建て直しますが、そればかりではなく、時代物もあります。世話物は事件記者のように事件が起こるとすぐ浄瑠璃に書き上げ好評ならロングランあります。

近松は1653年(承応2)福井で生まれました。吉江藩の武士の二男でしたが、15才頃父が浪人し、一家で京都へ移住しています。

藩主の若君にも仕え、教養は幼いころからあったと思われますが、京都の一条恵観に仕えたことにより、一層高まったでしょう。しかし武士の位から河原者といわれた歌舞伎の世界への変身はいかなるものでしょう。

歌舞伎世界では坂田藤十郎とのコンビで盛り上がります。若き日を京都で過ごし、30才の頃、「世継曾我」を上演します。

大当たりをする「曾根崎心中」は近松50才頃の作品です。浄瑠璃作者の名前を堂々と書いて位置づけました。藤十郎亡きあとの近松53才頃、大坂に移り住みます。

竹本義太夫の竹本座の作者として義理人情の葛藤を題材に、人の心の美しさ、哀しさを描きました。

「冥途の飛脚」は58才、「国姓爺合戦」は62才、「心中天の網島」は65才、「女殺油地獄」は67才。絶筆「関八州繫馬」は71才の作品です。「女殺油地獄」は現代にも通じる作品だと思います。昔も今も、人の心は変わりにくく流れていきます。

お墓のある廣濟寺は、古くは禅宗でしたが江戸時代は名のみ残る有様。日昌上人が法華霊場(日蓮宗)として再興した時に、妙見大菩薩を祀りました。

日昌上人と近松の関わりは深く、没後も遺族との繋がりがあった。



開山講には正本屋九右衛門、嵐三右衛門といった大坂の芸能関係者と共に、近松も名を連ねています。

近松が青春時代に公家奉公していた所縁の品々を、享保元年9月9日に亡くなった母の法要のために奉納しました。(完)

## [町の小さな文化財 第3回]

### 清水橋の五輪塔

猪名野神社の西側、惣構えの境界線は現在バス路線の道路になっている。きしの砦の土塁背後には昭和の初め頃まで堀跡が残っており、加茂井の水路に利用されていた。

水路が有馬道と交差する個所には橋があり、江戸期の古地図には石橋と記されている

昭和40年頃に水路は暗渠になり、橋もなくなったが、現在は近くのバス停に「清水橋」としてその名を留めている。

清水橋があった北東側民地に、お地蔵さんの祠とともにバス道路に沿って五輪塔が並べられている。その数二十数基、風化が進んでいるものが多く、かなり古い年代のものらしい。



バス道路沿いに並んだ五輪塔

五輪塔を並べている家の方にお伺いすると、「大正3年生まれの叔母さんが子供のとき、すでに今のような形で並べられていた」とのことです。

附近に散在していた、あるいは偶然に地中から掘り出された五輪塔がお地蔵さんのものと持ち寄られたのだろう。

街道の行路病者を弔ったものか、はてまた「きしの砦」の近くにあることから、信長と村重の戦いの死者を供養していたのかと想像を巡らした。  
(松田 記)

## 桃栗三年柿八年 林 亨

夏の真っ盛り、庭の葉刈りをしながら考えた。何故、こんな暑いときに葉刈りをしなければならぬのか。そうだ、葉刈りをしなくてもよい樹、即ち柿の木に植え替えればよいと。



然しこの考えは家内から「何を考えてるんですか!」と一喝された。

この時首題の言葉を思い出した。皆さんはこれに続くフレーズをご存じでしょうか。

私は祖母から色々な昔の諺を聞きましたが、その中の一つに「桃栗三年柿八年、梅はスイスイ十三年、アンズ九年で花盛り」と言うのがありました。

大概の人に聞きまして、続きのフレーズを知っている人は少ないです。

荒牧の古老にこの話をしましたところ、別の言い方として「・・、ゆうや橙二十年、梅檀(せんたん)の大馬鹿三十年、主が死んだらわしがる」と。この様に色々な言い方があるようなので調べてみました。

ことわざ大辞典(小学館)によると下のフレーズは「柚は九年」、「柚のバカめは十八年」、「枇杷は九年でなりかねる」、「梨の大バカ十八年」、「ミカンのまぬけは二十年」等。また「桃栗三年、後家一年」と後家の操を保つのは難しく、一年としゃれています。代わり映えしないが、他にも「・・・、林檎ニコニコ二十五年、女房の不作は六十年、亭主の不作はこれまた一生」などがあります。



桃栗三年柿八年はどの諺でも変わりませんが、それに続く成句は色々で樹木でばらつきが有ります。何れにしても、成果が出るまでは辛抱強く待てと言っているようです。

## 心の匠授業 どんぐり座が公演

10月17日(金)、南小学校の「心の匠」授業の一環として、どんぐり座がペープサート、紙芝居を公演しました。

お客さんは1年生190名、出し物は「伊丹に猿がいなくなった話」、「三軒寺の砂かけ狸」、「野間の一本松といたずら狐」の動物シリーズ3本立てです。約30分の熱演中、子供たちは熱心に見入っていました。最後に子供たちからどんぐり座一同に、お礼のあいさつがありました。どんぐり座の皆さんどうもお疲れ様でした。



ありがとうございました



## 伊丹台地の地形・地質

### 歴史会が講師を招き勉強会

歴史会が10月20日(月)、阪急3階リータで外部講師を招いて、伊丹台地の地形・地質について勉強会を開きました。

講師は、土木の仕事に従事され、地学・地質に詳しい伊丹在住の奥村さんです。

当日のお話の中から興味のある項目を拾ってみました。

① 12.5万年前、伊丹市域から北部の川西・宝塚市にかけては海でした。その頃の猪名川の河口は川西能勢口附近、武庫川の河口は西宮市生瀬附近です。やがて地球規模の寒冷化により海は後退して陸地化します。そして武庫川、猪名川・北摂山地から土砂が

流れ込み、これが伊丹礫層を形成します。その後、東西方向からの圧縮力が加わる地殻変動により、台地の東北から南西へ向かう傾斜地形が出来上がります。

② 伊丹台地の北東、川西市の鴨神社が標高44.1m 台地の南西、池尻一丁目の標高15.0mより高低差は29.1m、2か所間の距離6km から、勾配はおおよそ0.5%です。

③ 伊丹小学校の東側に2mほどの崖面があり、惣構えの境界になっているのは皆さんご存知です。ではこの崖面はどうしてできたのでしょうか？伊丹台地が誕生後、武庫川上流に出来た土砂ダムの決壊による大土石流により削り取られてできたと想定されています。

④ 伊丹のほぼ中央を斜めに切る伊丹断層と昆陽池陥没帯があります。最近の活動は2万数千年前以降と推定されています。

昆陽池は陥没帯の地形を利用してつくられた。また慶長年間(1596～16014)に埋め立てられた昆陽下池は、現在の昆陽池より西方の周囲より一段と低くなっている陥没帯にあったとされています。



勉強会の様子

⑤ 講師の奥村さんは昭和47年頃、下水道工事に携わっているとき、旧加茂井の内部を見られたそうです。石積の上に花こう岩の長方形の石畳を敷設して、バス通りの舗装を支えているとのこと。

本日は多くの資料と、興味あるお話を聞かせて頂きどうも有難うございました。

(松田 記)



## 古文書は楽し！ 林 亨

中尾先生のユーモア混じりの講義は本当に楽しいです。取り扱う資料も堅苦しいもの



### 離別之事

みぎ この  
右は此くま申す女

この度離別仕り候処  
たびりべつかまつ そろろところ

こうごいずかた えんづそろろ  
向後何方へ縁付き候とも

このものぎ つすこも  
此者儀に付き少し茂

かまえござなくそろろ  
構無御座候 後日の為仍而

くだん ごと  
離別状 件の如し

嘉永五年

子ね  
二月一日 金次郎

くまとの  
お具満殿

から、生活の中の庶民の問題まで様々で、動きが生き生きと読み取れます。

ここで三行半の例を紹介します。皆様の参考になればよいかと思いますので……。参考にならない方が幸せかも。。

“三行半”と言われる文書は、三行半で書かれる離縁状のことです。夫が自筆で妻宛に書いたものです。内容で重要なことは、①離縁すること、②妻の再婚の自由を認めると言うことです。また、離婚の理由が再婚の妨げにならないよう、例えば「我等勝手に付」の如く、夫の都合で別れると言う具合です。

今回の離縁状は6行に涉っていますが、精一杯に書いた事が伝わってきます。修羅場の中でも相手に対して気遣いを示す余裕が必要な様です。

我々は「古文書を訪ねて、新しきを知る」ことが出来る素晴らしいグループです。

(参考文献) 森 安彦 (中央大学教授)「古文書を読んでみよう」NHK 趣味悠々平成 13 年 7 月 1 日発行

文書；埼玉県立文書館/武蔵国足立郡羽貫村藤家文書 1560

## 思い出の世界遺産 (11)

### 「クロアチアのドゥブロヴニク」の巻 山内 富美子

ヨーロッパの南にあるバルカン半島西部のクロアチアは、かつては旧ユーゴスラビアに属していました。チトー大統領の死後、民族運動が頻発し、激しい独立戦争のあとクロアチア共和国として正式に認められたのが

1992年のことです。その後も戦闘は続き、ようやく1995年になって平和な独立国として名実ともに認められるようになりました。戦争後の傷跡と混乱からいち早く抜け出して完全に復興し、今では活気と平和を取り戻しています。そして世界中から観光客が数多く訪れています。

クロアチアはイタリアの対岸にあり、美しいアドリア海に沿って、南北に延びている国で

す。国土は九州の1.5倍位で、人口はおよそ450万の小さな国ですが、2010年当時、7つもの世界遺産があったのには、驚きでした。

主に紹介するのは、ドゥブロヴニクという街で、クロアチアの南の端にあってアドリア海に面しています。「アドリア海の真珠」と呼ばれているこの街は、城壁に囲まれていて古くから海洋国家として栄えてきました。



ドゥブロヴニクの旧市街

その城壁に囲まれた旧市街が、世界遺産に登録されており、中世の面影が色濃く残っています。

オレンジ色で統一された屋根が並び、周囲2km、高さが25mある堅牢な城壁で取り囲まれている街は、海の青さと対比して眺めると、本当に絵になる光景です。この美しい絵のようなドゥブロヴニクの風景を目に焼き付け、思い出の写真を撮影するために、旧市街を展望できる丘の方にバスで移動しました。丘の上の方に登って街を眺めると、とても天気の良い日だったので、紺碧のアドリア海と、オレンジ色の屋根瓦のコントラストがとても美しく、その光景にアクセントを付けている、高く、重厚な城壁とともに、忘れられない風景を、私の脳裏に焼き付けてくれました。眺めの良い絶好の場所を求めて、バスのドライバーさんが、3か所も移動してくれたお蔭です。

ここからは、城壁の中の旧市街を紹介していきます。メインの入り口は、ピレ門と言われ、かつては日没になると門前の跳ね橋が上げ

られ、門は固く閉ざされて、城壁の中との行き来が夜は出来なかったと言います。恐らく外からの敵の侵入を防ぐためだったのでしょう。このピレ門の上には、ドゥブロヴニクの守護聖人、聖ヴラホの像が立っていて、行きかう人々を今もじっと見守っています。中に入るとすぐ目につくのが、オノフリオという人が、500年以上前に造った大噴水で、12kmも離れた水源から水を引いています。現在も16面の顔のレリーフの水道管の口から水が出ていて、夏の暑いときには、訪れた人が水筒に水を入れるのです。

オノフリオ大噴水の向かい側には、高い鐘



楼のあるフランシスコ会修道院があります。中には現在も営業

フランシスコ会修道院

中のクロア

チアで最も古い薬局があり、薬ツボなど古い器具を展示する博物館もあります。フランシスコ修道院の広い部屋を案内してもらったとき、最も印象的だったことは、1991年の独立戦争で、ユーゴスラビア連邦軍による攻撃があった際、その部屋には多くの幼稚園の子供がいたのですが、全員を上手に逃したため、子供たちは誰一人、亡くならなかったという話でした。しかし、今でも銃撃の跡、弾の跡が壁に残っているのが、はっきりわかりました。

ピレ門から中心広場までの200m程のメイン・ストリートがプラツァ通りで、両側には、カフェ・銀行・土産店が並び、1日中世界各地から集まる観光客で賑わっています。

街の中心広場には高さ31mの鐘楼があり、正午に時刻を告げる荘厳な鐘が街全体に響き渡ります。滞在中に何度か耳にしました。

丁度その鐘楼の隣にスポンザ宮殿と呼ば



れる建物があり、貴重なドゥブロヴニクの古文書が保管されています。私が入ったとき、ホールには土産物など売る出店が並んでいましたが、1つの部屋の光景には驚きました。

そこには、1991年に、ドゥブロヴニクへのユーゴスラビア連邦軍の攻撃があったとき、勇敢に戦って戦死した若者達、一人一人の写真とその経歴書が、部屋全体に展示されていました。ちょっと胸を打たれたシーンでした。そして、生々しい独立戦争の時の映像が、ビデオで流されていました。戦争の時、街は2千発の砲弾で破壊されましたが、ドゥブロ



大聖堂

ヴニクの人々の不断努力により街並みは修復され、今は大勢の観光客や見学者を迎えています。

城壁の中の旧市街には、大聖堂をはじめいくつもの教会や海洋博物館・旧総督邸など見る価値のある建物が沢山あります。時間の許す限り精力的に見て回りました。また城壁の上に巡らされた遊歩道で、街を1周することが出来ます。1周2km程の城壁の上から見るオレンジ色の屋根瓦や青い海の風景は、充分楽しむことができ、遊歩道の散策は、絶景めぐりのハイライトです。

旧市街の中にも普通の民家があり、青空市場が開かれ、学校もあるのか、小学生が三々五々帰宅している様子にも出会いました。世界遺産に登録されている場所にも普通の生活があるのを実感しました。

クロアチアの世界遺産の中で人気のあるスポットは、アドリア海沿岸に集まっています。ドゥブロヴニクがナンバー1ですが、その北にスプリットという町があります。アドリア海沿岸の最大の港町で、紀元後300年頃、古代ローマ皇帝のディオクレティアヌスが造った宮

殿があります。宮殿跡の遺跡の中で、人々が今なお生活しているという、不思議な情景を作り出しています。

その他、シベニクの聖ヤコブ大聖堂や、トロギールの聖ロヴロ大聖堂、そして自然遺産のプリトヴィツェ湖群国立公園などの世界遺産に触れてきました。

プリトヴィツェ湖群国立公園は大小16の湖と92カ所の滝のある公園で、幻想的なスケールの大きな美しい大自然の芸術といえるところです。春に訪れたのですが、アドリア海沿岸とは異なり、50cm以上もの雪が積もっていて、湖の船着き場まで雪の森の中を短靴で歩いたのを思い出します。 ( 完 )

## [ガイド豆知識 第2回]

### 修理固成

猪名野神社の参道から拝殿の手前に、これから先は神域であることを示す



結界の注連柱が建つ 猪名野神社の注連柱にしている。右側の柱には「修理」左側の柱には「固成」の文字が刻まれている。

この四文字は古事記の冒頭に出てくる言葉であり、先ず読み方はしゅうりこせい。修理＝しゅうりが正しい読み方だ、とこだわる方もおられるが、広辞苑では、“しゅーり(すりとも)1、修繕、なおし2、修理職(しゅうりしきの略)、現代語読みでは、修理(しゅうり)＝繕いなおすこと。修繕とある。何れの読み方でも意味は同じ修繕を意味するのであれば、現代の慣用語での発音で上等である。

修理固成の意味はこの漂える国を整え、かため完成させよ。もう少しだけた分かりやすい言葉で意識すると『地面はまだ固まっていな、頼りない浮漂の様に漂えるくらげの

ような状態なので、しっかりした国に造り直しなさい』。…と記されている。

猪名野神社の注連柱に揮毫された杉浦重剛(しげたけ)は、教育家・思想家。昭和天皇の皇太子時代、弟宮の秩父、高松兄弟と共に帝王学の一環として倫理を進講した。注連柱には「大正九年五月奉納」の銘がある。

(亀井 記)

.....

## 食」首

**定例会** ・8/12(火) ・9/9(火) ・10/14(火)

### **案内ガイド**

・8/21(木)A コース(興除公民館歴史をたずねる会 岡山) ・8/27(水)F コース(桃寿園デイサービス 伊丹市) ・9/7(日)A コース(近畿益田会 三田市) ・9/10(水)岡田家(泉南市埋蔵文化センター 泉南市) ・9/12(金)F コース(大阪狭山市熟年いきいき 大阪狭山市) ・9/14(日)A コース(大阪高齢者大学OB会 吹田市) ・9/17(水)Aコース(大阪府高齢者大学 豊能町) ・9/18(木)Aコース(三田高齢者大学きりえクラブ 三田市) ・A コース(パナソニック松愛会 守口市) ・9/19(金)A コース(関西八陵会 堺市) ・Bコース(大阪高齢者大学 池田) ・9/30(火)A・B コース(元気なわて 四條畷市) ・10/5(日)岡田・石橋家(青年洋上大学同窓会) ・10/7(火)岡田家(毎日新聞女の気持ちペングループ 大阪) ・10/9(木)A コース(宝塚文化財ガイドソサエティ 宝塚市) ・10/16(木)AB コース(ワンアップサークル 西宮) ・10/18(土)A コース(一六会 豊中市) ・10/21(火)Aコース(高大箕面同窓会 池田) ・10/23(木)A コース(阪急・阪神観光ある

き) ・10/27(月)Aコース(ドリーム 21 猪名川) ・A・B(ひよどり台山歩会 神戸) ・10/29(水)Aコース(古典と歴史サークル 大阪) ・Aコース(尼崎年金者組合園田分会 尼崎)

### **屋外研修**

・9/15(月、祝)土曜班・歴史会共催 ぶらり塚口あるき近松記念館

**どんぐり座公演** ・10/17(金)南小学校

### **歴史ロマン体験学習支援**

・8/2(土)印鑑をつくろう ・9/6(土)ヒエログリフを活用しよう ・10/18(土)鼓をつくろう

### **有岡城跡の清掃**

・8/26(火) ・9/23(火) ・10/28(火)

.....

## 食」首

**定例会** ・11/11(火) ・12/9(火) ・1/20(火)

**案内ガイド** ・11/6(木)Aコース(大阪府高齢者大学 茨木市) ・11/7(金)A・Bコース

(元気なわて 四條畷市) ・11/15(土)Bコース(阪神シニアカレッジ 伊丹市) ・11/20(木)Aコース(わくわく会 高槻市) ・11/23(日)Aコース(関西詩吟文化協会春洲会 大阪) ・11/27(木)Aコース(三島子ども文化ステーション 高槻市) ・12/6(土)A・Bコース(西野山歩会 伊丹)

**屋外研修** ・11/6(木)水曜班 大阪天満宮と中之島 ・11/18(火)バス旅行 三木方面

**歴史ロマン体験学習支援** ・11/8(土)兜をつくろう ・12/6(土)ペン立てをつくろう ・1/24(土)管玉ブレスをつくろう

**有岡城跡の清掃** ・11/29(火)一斉清 12/23(火) ・1/27(火)9:00～

### 編集後期

いよいよ秋本番、暑くもなく寒くもなく、よい時候になりました。官兵衛人気も落ち着きを見せてきましたが、11月は行事の多い月です。これが終われば師走、忘年会。あゝ一年は早い早い。

(T・M)